

震災直後の最初の3日間を生き抜く

被災者の声から生まれた

社員と地域を守る
防災倉庫

蔵

あんしんの蔵



KOJIMA BOSAI



災害は忘れた頃にやってくる・・・ 近い将来確実に起こる大震災に、 社員を守る備えは十分ですか？

日本は世界有数の地震大国です。南海トラフ地震や首都直下地震は「いつ起きてもおかしくない」と警告されています。

会社で災害に遭ったとき、社員の命を守り、事業を止めないために必要なのは「日頃の備え」です。

有事の際には、多くの帰宅困難者が発生します。

それがもし自社の社員だったら??

社員を守る備えは、経営者にしかできない決断です。

その備えを確かなものにするのが防災倉庫です。防災倉庫があれば、いざという時に必要な物資が整い、社員の安心感と企業の信頼につながります。

能登半島地震で最も多く聞かれたのは、「最初の3日間が一番つらかった」という声。水も食料もトイレもなく、救助も来ない。

命を分けたのは—— 備えがあったかどうか。

30年以内の巨大地震発生率



※地震調査研究推進本部地震調査委員会調べ参照

※南海トラフ巨大地震の発生に際して、富士山の噴火が誘発されることも懸念されています。



寒さを防ぐのに困った

水と食料がなく、
家族で分け合った



せめて最初の数日だけでも
備えが欲しかった

震災直後の3日間を生き抜く！

現場の声から生まれた “実証型” 防災リュック

お風呂に入れない
日が続いた



簡易トイレがなくて
一番つらかった



避難所に行けば、食べ物やトイレなど必要なものが
なんでも揃うわけではありません。
児嶋防災は能登で被災者に直接聞き取りを行い、「こ
れがなくて困った」「これが欲しかった」という声を
もとに物資を厳選しました。

足らなくて
困ったもの

水、飲料水

トイレ

すぐに食べられる食料



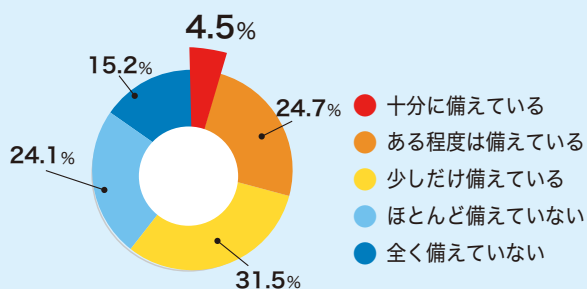
今こそ 社員の命を守る“会社の備え”



“その時”が来たとき、
会社の財産である社員をどう守るか、

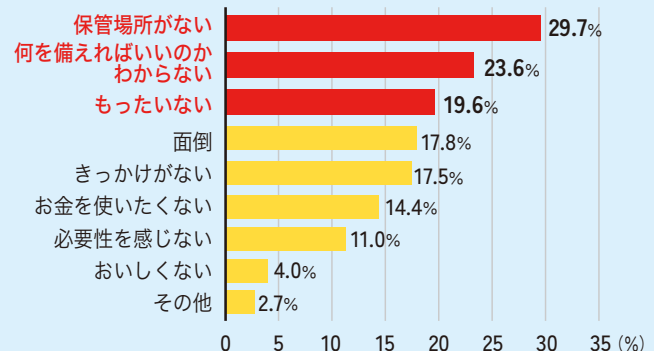


保存食・飲料水の準備



引用：マイナビニュースより

保存食・飲料水を備えていない理由（複数回答）



防災への意識が高まっている一方で、保存食・飲料水を「十分に備えている（4.5%）」と、自信を持って言える人は意外にもわずか5%未満という結果でした。

保存食・飲料水を備えていない人を対象に、その理由について尋ねたところ、もっとも多かったのは「**保管場所がない**（29.7%）」といった物理的な理由でした。「**何を備えればいいのかわからない**（23.6%）」という、保存食に対する知識不足によって備えていない人、使用するのかわからないのに購入して賞味期限がきれてしまうのが「もったいない（19.6%）」と回答した人も一定数いました。

保管場所がない



防災倉庫



何を備えればいいのかわからない



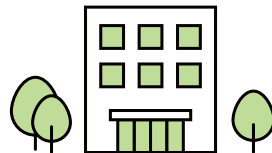
防災リュック



児嶋防災ならこの2つの不安に対応いたします

“社員の安心”を備える 防災倉庫 という選択

会社規模や設置環境に応じた選択肢



児嶋防災は能登で被災者に直接聞き取りを行い、「これがなくて困った」「これが欲しかった」という声をもとに物資を厳選しました。

地震だけではなく、大雨による水害など、私たちの生活はさまざまな有事に脅かされています。

この防災倉庫は、災害の種類を問わず **“社員を守る最後の砦”** となります。防災倉庫には、防災リュックを20人分収納（～100人分収納できる倉庫までラインナップ）。災害直後から社員を守り、事業継続の第一歩を支えます。堅牢な倉庫に収納され、必要なときすぐに取り出せます。

設置環境に合わせた特別仕様もご用意しています

潮風などの影響を受けやすい沿岸部の企業様向けに、サビや腐食から倉庫を長期間守る **特殊な防錆処理を施した「塩害対策モデル」** もご提案可能です。立地条件を問わず、最適な備えを実現しますので、お気軽にご相談ください。

防災リュック 21点セット

1人用 7年保存

過酷な環境でも美味しさと安心をキープ
7年保存レトルト食品入りの防災リュック！



- 水 350ml（3本）
- 保存食 6食分
- ジップロックMサイズ（3袋）
- 携帯トイレ3回分
- 非常用アルミシート
- 軍手
- ウエットタオル
- スプーン（6本）
- 防災用簡易照明灯（10時間～12時間・3本）
- 防災カード

本製品に含まれる「7年保存レトルト食品」は、-30℃から80℃までの幅広い温度環境に対応しています。夏場の高温な倉庫など、過酷な保管環境下でも長期保存が可能です。

※写真はイメージです。リュックの中身は予告なく変更される場合があります。

“転倒防止工事付き”の防災倉庫が安心のカギ

「備蓄倉庫は置くだけで十分」と思っていないですか？

災害時、固定されていない倉庫は倒れて扉が開かず、防災用品が取り出せないことがあります。

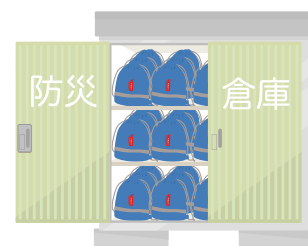
そこで 児嶋防災は、転倒防止工事を伴う設置を標準仕様になっています。

しっかり固定された倉庫なら、倒れにくく非常時にも使え、いざという時大切な社員を守れます。

せっかく備えるなら、「**安心して使える倉庫**」を選びませんか。

児嶋防災なら、被災者の声を反映した「本当に必要な防災用品」を備えた防災リュックと、保管に便利な倉庫をどちらもご用意できます。さらに、オプションで7年ごとの点検や防災用品の更新といった手間のかかる作業もおまかせいただけます。

項 目	自前で揃える場合	防災倉庫（児嶋防災）
必要物資の洗い出し	個別に調査が必要	被災者の声を反映し最適化済み
調達コスト	バラ購入で割高	パッケージで一括導入
保管・管理	社内スペース圧迫、劣化管理も自前	専用倉庫で適正管理
災害時の即応性	バラバラに保管、所在不明リスク	倉庫に一式収納、すぐ使用可能
	倉庫が倒壊・扉が開かない恐れ	転倒防止工事で倒れにくく、即使用可能
CSR効果	外から見えぬ効果なし	倉庫が地域安心のシンボルに



“CSR”※としての社会的価値

防災倉庫は単なる備蓄ではなく、「社員を守り、地域を支えるCSR活動」です。設置された倉庫は“**地域の安心のシンボル**”となり、社員・取引先・地域社会からの信頼を高めます。

また、防災倉庫を設置することは、社員にとって大きな安心につながります。社員想いの会社としての姿勢は、福利厚生の一環として評価され、この人材不足の時代においても、人材確保・定着につながる可能性があります。



自らの事業所は自らで守る！

従業員・利用客の安全を確保する！

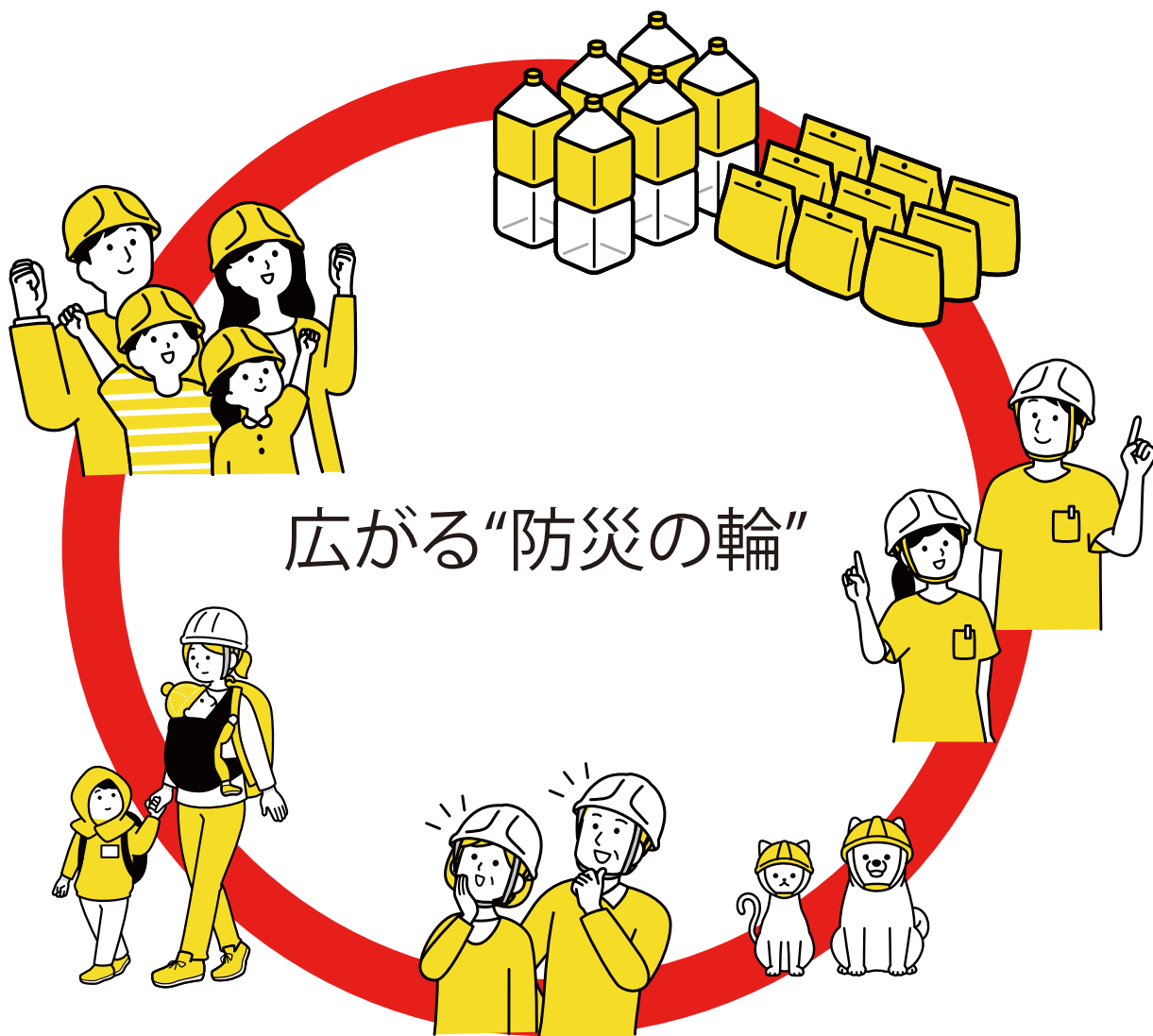
事業の継続再開に力を尽くす！

**20人用から100人用まで、会社規模に応じた
ラインナップを用意。倉庫を置けない企業様には
リュック単品販売にも対応。
お気軽にお問い合わせ・ご相談ください**

お問い合わせは
コチラ



※CSR（社会的責任活動）とは：企業が利益を追求するだけでなく、社会や環境に配慮した活動を行う責任のこと
地域貢献（清掃活動・寄付など）・環境保護（省エネ・リサイクルなど）・働きやすい職場づくり（福利厚生・多様性推進など）



広がる“防災の輪”

ひとつの企業の備えが、地域全体の防災力を高めます。
社員を守ることは、経営者の使命であり最大の社会貢献です。

「この倉庫は、社員と会社の信頼を守る証です。」

児嶋防災では、小さなご相談から大規模施設の年間管理まで、
幅広く対応しております。

「こんなこと聞いていいのかな？」という段階でも大歓迎です。
まずはお気軽にご相談ください。



お問い合わせ

児嶋防災株式会社

〒607-8221 京都市山科区勸修寺西金ヶ崎254
勸修寺エステートビル1-A



075-592-2626

営業時間 9:00～17:00

定休日：土日祝

お問い合わせは
コチラ

